



# ちはやあかさか 議会だより

第 101 号

平成 24 年 8 月 1 日

発行 千早赤阪村議会

編集 議会広報編集委員会

〒585-8501

大阪府南河内郡

千早赤阪村大字水分 180 番地

TEL 0721 - 72 - 0081

FAX 0721 - 72 - 1880



水辺の安全教室～プールでカヌー体験会～

## — 主な内容 —

定例会議決結果	2
全員協議会・議会研修報告	3・4
いっぱん質問	5～7
議会活動日誌、雑感	8
	ページ



楠木正成の  
イメージキャラ  
「まさしげくん」

(千早赤阪楠公史跡保存会提供)

## 6 月定例会のあらまし

平成 24 年第 2 回(6 月)千早赤阪村議会定例会は 6 月 5 日に開会し、平成 23 年度補正予算(最終)の専決処分や税条例の改正、平成 24 年度補正予算など計 10 議案が提案され、それぞれ承認・可決しました。6 月 15 日の最終日には、追加議案 3 議案を可決し、一般質問をもって 11 日間の定例会を閉会しました。

「議会だより」は、年 4 回(5 月、8 月、11 月、2 月)の発行です。(臨時号を除く)

# 6月定例会議決結果

案 件 名	議決結果
・第22号議案 専決処分（税条例の一部を改正する条例）の承認を求めることについて	原案承認(全員)
・第23号議案 専決処分〔平成23年度一般会計補正予算（最終）〕の承認を求めることについて	〃
・第24号議案 専決処分〔平成23年度国民健康保険特別会計補正予算（最終）〕の承認を求めることについて	〃
・第25号議案 専決処分〔平成23年度介護保険特別会計補正予算（最終）〕の承認を求めることについて	〃
・第26号議案 専決処分〔平成23年度後期高齢者医療特別会計補正予算（最終）〕の承認を求めることについて	〃
・第27号議案 専決処分〔平成23年度下水道事業特別会計補正予算（最終）〕の承認を求めることについて	〃
・第28号議案 税条例の改正について	原案可決(全員)
・第29号議案 平成24年度一般会計補正予算（第1号）について	〃
・第30号議案 平成24年度介護保険特別会計補正予算（第1号）について	〃
・第31号議案 平成24年度水道事業会計補正予算（第1号）について	〃
・第32号議案 平成24年度一般会計補正予算（第2号）について	〃
・第33号議案 工事請負契約の締結について	〃
・第34号議案 村長の専決事項の指定について	〃

## 主な案件の内容



### ○第23号議案～第27号議案 専決処分の承認を求めることについて

平成23年度の予算について、村税や地方交付税、国庫補助金などの歳入や、歳出が確定したことにより、村長が専決処分とした最終補正について、議会の承認を求めるもの。

### ○第28号議案 税条例の改正について

年金所得者の確定申告での寡婦（寡夫）控除申請が不要となる改正。改正後は、扶養親族申告書を提出する際、寡婦（寡夫）の記載をして提出することにより寡婦（寡夫）控除申請が不要になる。  
施行日は平成26年1月1日から。

### ○第31号議案 平成24年度水道事業会計補正予算について

村立中学校付近の府道富田林五条線の路肩崩落に伴う水道管仮設工事に伴う予算を補正するもの。

### ○第33号議案 工事請負契約の締結について

千早赤阪村防災行政無線システム同報系整備工事契約について、議会の議決を求めるもの。

#### 専決処分とは

条例や予算などは議会が議決しなければなりません。しかし、時間的に議会の開会を待てない緊急の場合もあります。そのようなときに村長が議会に代わって決定することをいいます。専決処分をしたことは、次の議会で承認を得なければなりません。

# 全員協議会報告

## 「行政経営戦略プラン」の進捗状況

平成22年度から平成24年度までの「実施計画(案)」の主な課題の実績と見込みについて報告があった。

一、財源確保については税金の徴収強化を図った結果、23年度は目標額600万円に対して、800万円を徴収することができた。

なお、法人住民税、固定資産税の超過課税は、本戦略プランの効果等により、直ちに実施する状況ではないと判断している。

二、公共施設の再編(役場庁舎)は防災拠点として、24年度中を目的に、協議し調整する。

三、事務事業の広域化については、平成24年1月から、3市2町1村による共同処理を開始した。引き続き、適正な共同処理に努める。

平成23年度の財政効果は、目標額1億3270万円に対して、効果額は7800万円となり、その差額は主に超過課税を適用しなかったためである。

以上の説明に対して、議員から、財政は好転しているのだから、住民負担をこれ以上強いることなく進められたい。遊休財産の再利用の検討、処分の促進を図られたい等の意見があった。

### 行政評価制度について

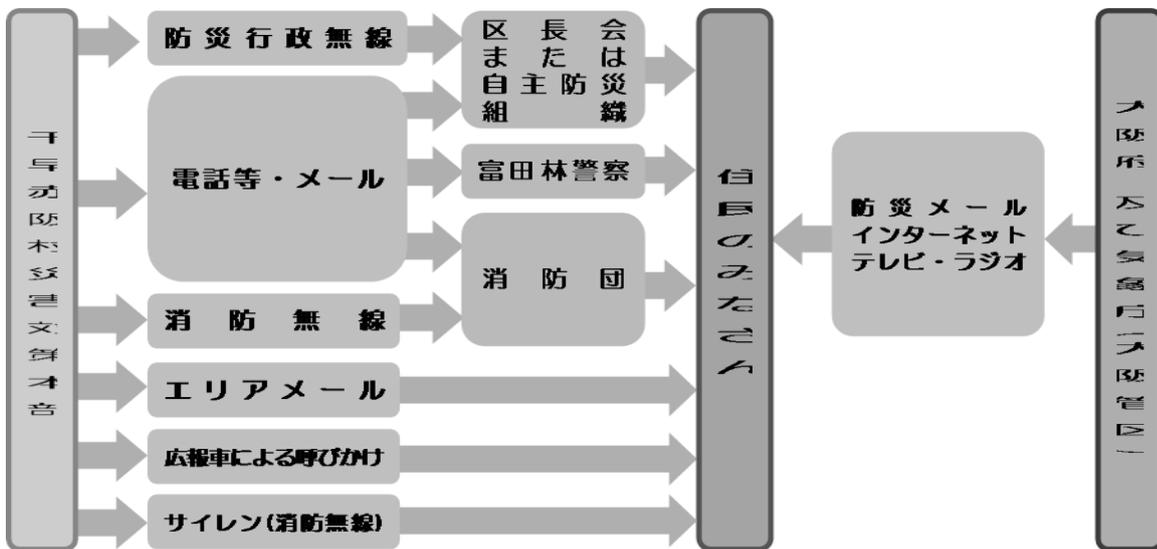
村は今後、村政経営について、投入した経費に見合うだけの効果を上げているのかを評価し、課題を発見して、次の計画策定や、今後の行政活動の改善につなげていく取り組みを始める。

### 土砂災害避難勧告等判断・伝達マニュアルの整備

土砂災害の判断基準については、村内にある6カ所と村外にある2カ所の雨量計の観測結果と、今後の雨量予測により判断するものである。今までの判断基準は、避難勧告、避難指示の2段階であったが、避難勧告の前に危険度3段階を加えて、5段階に改める。

住民への避難勧告・指示の伝

達については、左記のとおり行う。



### 同報系防災行政無線の設置

災害に備え、情報をいち早く住民に伝達する「同報系防災行政無線」を平成25年2月までに整備する。整備費用は、1億5000万円である。村内の避難所20カ所に無線子局の設置、防災関係者に戸別受信機を150台配備(貸与)する。

機能は、気象庁からの一斉放送による地震情報や、役場からの避難勧告・指示やサイレン、音声放送などができる。また、子局独自の地域放送もできる。



防災行政無線 (イメージ)

# 議会研修報告

5月11日、議会全会派合同で岐阜県関ヶ原町に視察研修を行いました。

テーマは「少人数での議会運営」「健全な財政運営」「空き地・空き家情報提供制度」「耕作放棄地解消活動」「関ヶ原のPR活動」「ふれあいバスの概要」などについてです。

関ヶ原町は、岐阜県の西端に位置し、滋賀県との境界にあり伊吹山、鈴鹿山脈にかこまれ、冬は豪雪となる地域です。

歴史的には、天下分け目の合戦で知られる「関ヶ原の合戦」で有名です。人口8000人、議員定数9人の、少人数での議会運営をしています。

町長は、まちづくりについて「ここに住んでいる人が幸せに暮らせれば良い、人口の増減にこだわらない。基礎自治体の生き方としては、首長の考え方しだい、人口が減少しようかと合併はしない」と町民に宣言されています。

また、財政改革に取り組まないと「町は生き残れない」そのため町長、議員の給与・報酬を

## 岐阜県 関ヶ原町



関ヶ原町役場

18%削減していますが、職員との給与の削減はしていません。

議員の歳費が低いため、高齢の議員が多く、農家や不動産会社、保険代理店などの自営業者の方が議員をしています。

空き家住宅については、働き場所が少ないことや、雪が多いため、あまり活用されず、町は情報を提供するのみになっています。

ふれあいバスは、シルバー人材センターに委託し4台、5コースで運行しています。

千早赤阪村は、来年の村議会議員選挙から議員の定数が7人になります。

全国で、7人の議員定数は愛媛県松野町（人口4398人）、奈良県黒滝村（人口1168人）、奈良県北山村（人口863人）、沖縄県渡名喜村（人口464人）など13町村です。（全国町村議会実態調査 平成23年7月現在）  
人口6000人規模の市町村で議員定数が7人というところはありませぬ。



関ヶ原古戦場跡



常任委員会は総務民生常任委員会と産業建設常任委員会の2つの委員会があり、現在は1委員会に5人の定数です。

来年の議員選挙後は4人と3人の委員構成となります。今後どのように運営すればいいのかなどを、毎月議会改革推進委員会を開催し協議をしています。

関ヶ原町での研修を、今後の議会活動、村の活性化の参考にしたいと考えています。

常任委員会とは

行政の内容が複雑多岐に伴い、これを審査するためには、高度の専門知識が必要となっており、専門的に審査するための委員会

# いっぱん質問



6月定例会では、5人の議員が一般質問を行いました。内容（560字以内）は、質問した議員の責任で作成したものです。

田中 博治 議員

浅野 利夫 議員

## 今後の村づくりについて松本村長の考えは

**問** 2期目の4年間を振り返って、ご自身でどのように評価されているのか。また、3期目の4年間をどのような施策を行い、どんな村にしようと考えているのか伺う。

**答** 合併が不調におわり、直ちに自立の村づくりに向けて、「第4次総合計画」を策定、理想の村づくりをスタートさせた。具体的には、限られた財源を活用し、小中学校の耐震化などの安全対策や医療費助成の拡充など

一定の成果をあげ、自立へ向けた村づくりの基礎ができた4年間であったと考えている。次の4年間の目標として、一点目は、安全安心の活力ある村づくり。二点目は、村の独自性を打ち出す村づくり。三点目は、村だからできる教育等の村づくりを目標としている。本村が「ええ村や」「住みたい村や」と言われる魅力ある村づくりを実現したいと考えている。

## 千早小吹台小学校の耐震化工事の今後の考え方は

**問** 当小学校も本年2月に府より診断結果が発表されると聞いたが、結果はどうか。当体育館は村民の避難場所でもあるため、今後の耐震化工事の考え方について伺う。

**答** 予定工事費は、2億5000万円で平成25年度に体育館の工事を行い、続いて26年度に本校舎の工事に着手予定である。また、懸案個所の改修と音楽室等のエアコン設置や太陽光発電設備の設置も考えている。



千早小吹台小学校

## 災害に強い村づくりを

**問** 昨年3月11日に発生した東日本大震災以来、防災意識が急速に高まり、全国的にも公共施設や避難場所の耐震化が進められている。本年2月、関西大学・河田教授の防災セミナーを受講し、その中で「自然は人間の社会の弱い部分を攻めてくる」また「自然と人間の知恵比べで、知恵を出さない方が負けである」との話が印象に残っている。

**答** 災害は待ってくれない。高度経済成長期に集中投資した社会インフラ(上下水道・橋・道路など)を把握し、国・府との連携で更新計画を立ててはどうか。  
**問** 水道施設整備については水道事業基本計画に基づき、平成

24年度末までに変更許可申請を行うため、現在、手続きを進めている。小吹台地区の下水道は整備から40年が経過しており、昨年度にマンホールのカメラ調査が完了したので、今後、整備手法を検討して維持管理計画を策定する。道路は平成22年度に整備計画を定めた。橋梁は昨年度、調査点検を実施。本年度に修繕計画を立て、計画的に整備を進める。

## 自然エネルギーで村の活性化を

**問** 自然豊かな本村は約90%が山林と農地で占めている。高知県梼原町は、風力、バイオマス、小水力などを利用しエネルギー自給の町づくりで成果を上げている。本村も研究しては。

**答** 自然エネルギーは地形、地質、気象条件、法規制やコスト面など勘案する必要がある。バイオマス発電や小水力発電については、今後研究していく。



カメラ調査

## 現行の経営戦略プランは、緊急性があったのか 次期プランはどうするのか

**問** 平成22年2月に策定された「財政収支フレーム・行政経営戦略プラン」は、平成21年度も平成22年度も形式収支は赤字となっている。しかし、決算は大幅な黒字であった。積立金も計画では、平成24年度に0円となっているが、このまま推移すれば積立金は9億から10億円になる。これらの数字から、財政は危機的状況とはいえず、計画に緊急性はなかったのではないかと。

**答** 村の行財政改革の計画が府に評価されたことで、財政収支の改善が図られた。指摘のとおり交付金、地方交付税などの国の動向を充分把握できなかったこともある。しかし、政権交代や東日本震災など社会情勢の変化もあり原則どおり実施した。

**問** 村民に危機感をあおって協力を求めたのだから、財政が好転したら村民にきちんと釈明すべきではないか。

**答** これまでも情報提供に努めてきたが、今後も行政の説明責任を果たせるよう努める。



第4次総合計画

(小・中学生が描く、いきいき千早赤阪村)

**問** 村長にお聞きするが、次期計画は、危機感をあおるのではなく「生き甲斐を見いだせる」政策的なものにするべきだ。

**答** 「健全財政運営の維持」と「総合計画の政策実現」をめざした、戦略的な計画とした。

**問** 計画にある法人税・固定資産税の超過税率や都市計画税は選挙公約として増税するのか。

**答** 増税は避けたい。増税を考へなくてもいい状況が何年かは続くと考えている。

## 図書行政の充実を

**問** 近隣市の図書館を利用したいという要望が多い。3月議会以降、行政としてどのように努力してきたか伺う。

**答** 基本的な考えは同じだが、南河内6市町村で構成する南河内広域連携研究会で、図書館の共通利用について研究会の動きを踏まえ、対応していきたい。

**問** 村長は村政報告会で、年内にも利用できるよう準備中と報告しているようだが、実施はいつ頃か。

**答** 現在、研究会で図書館の共同利用を検討課題として検討している。首長間で、ほぼ合意に達し、精一杯取り組んでいる。

## 子ども医療費の充実を

**問** 若い世代が定住できる施策を進めることは、人口減少に歯止めをかける重要な施策のひとつだ。子育てしやすい環境を整えることが、若い世代の定住につながる。通院費を中学校卒業まで拡充することを求める。予算はどれぐらいと見ているか。

**答** 第4次総合計画の重点施策のひとつに、子育て対策の推進をかがけている。中学校卒業までの通院費助成について、実施に向けて検討している。中学生144名として約250万円と試算している。

## 道の駅拡充で村活性化を

**問** 村の道の駅は、設置場所・広さ、地元の物品が少なく、見劣りする。住民が作成する民芸品や工芸品の販売もできるような本格的に見直すべきだ。

**答** 本来の目的、機能という点では見劣りしない。楠公史跡保存会とも相談し、活性化に努めたい。



道の駅

## 国保料の引き下げを

**問** 国保料は、一人平均10万2055円で、二人家族では20万4000円を超える。国保会計の基金は22年度決算では1億6600万円である。約2000万円あれば一人平均1万円の引き下げは可能だ。23年度見込みでも2000万円を超える黒字になり、基金を使わなくても

引き下げはできる。引き下げを  
する考えはないのか。  
**答** 国保会計は不安定要素が多い。基金を設置し保険料の値上げを極力抑えてきた。国保運営協議会で据え置きという承認を得た。今後の状況、動向を見定めたい。

## イノシシ被害対策の強化を

**問** 最近のイノシシによる被害は、あらゆる農作物に及んでいる。コメの収穫も、昨年の半分しかなかったとか、収穫もできなかつた水田もあり、農家が耕作意欲をなくしている。最近45人の方からイノシシの被害対策を望む声があった。対策を緊急に実施する必要がある。

**答** 従前から電気柵設置の補助などの対策を講じてきたがすべ

ての被害を防ぐことは難しい。今後は広域的に取り組みたい。



電気柵

## 放射線副読本についての所見は

**問** 文科省は、平成23年10月に「放射線について考えてみよう」という副読本を発行し、学校に配布している。この副読本は「すべての放射線は安全」との認識を誘導する内容となっている。

この副読本についての教育委員会の所見は。

**答** 放射線のことをわかりやすく書いており、学習の補助資料として活用できればと思っ

## 議会を傍聴してみませんか

今回の定例会は、下記の日程で開催の予定です。

### 第3回（9月）定例会の日程（予定）

月日	会議の内容	
9月5日 (水)	本会議 (初日)	議案上程、審議
9月6日 (木)	本会議 (2日目)	決算審議
9月20日 (木)	本会議 (最終日)	追加議案上程、審議、 一般質問

※開会時間は、いずれも午前9時30分です。このほか、各委員会等も開かれます。日程は都合により変更となる場合がありますので、傍聴される方は事前に議会事務局へお問い合わせください。(TEL 0721-72-0081)



## 議員補欠選挙

議員の辞職に伴い平成22年7月1日から、欠員となっていた補欠選挙が6月24日に行われ、次の方が当選されました。

**住所** 大字小吹68-625

**氏名** 山形 研介 議員



# 議会活動日誌



## 5月

- 7日・議会改革推進委員会
- 9日・農業委員会
- 11日・関ヶ原町研修会
- 14日・南河内郡町村議会議長会総会
- 24日・府町村議長会5月定例総会
- 25日・会計監査
- 28日・議会運営委員会
- 29日・正・副議長研修会
- 30日・富田林商工会通常総会
- 31日・富田林商工会通常総会

## 6月

- 5日・第2回定例議会（初日）
- 8日・全員協議会
- 8日・議会改革推進委員会
- 8日・幹事長、代表者会議
- 12日・農業委員会
- 12日・広報編集委員会
- 12日・議会運営委員会
- 13日・人権協会常任委員会
- 15日・第2回定例議会（最終日）
- 17日・楠公史跡保存会通常総会
- 26日・保健事業推進協議会
- 27日・人権協会総会
- 27日・会計監査

## 7月

- 3日・議会改革推進委員会
- 3日・幹事長、代表者会議
- 6日・広報編集委員会
- 12日・学校給食会理事会、運営委員会
- 13日・広報編集委員会
- 20日・議会運営委員会
- 23日・臨時議会
- 27日・会計監査



## 雑感



村の村長選挙が終り、この便りが読まれる頃には8月になっていると思う。

国会では消費税の増税法案が可決されれば、ますます景気が悪くなると思える。

国会では、政党内・政党間の勢力争い。特に与党内での勢力争いで、○○○党から出ていく人、また○○○党を助けて漁夫の利を得ようとする人、といった日本の国は、どこへゆくとうしているのだろうか。

私は、5月12日～6月22日まで、各地区を訪問しながら、村民の目や顔を見させていただいた。候補者の約束を一生懸命に伝えた。私の顔を見ながら少年や少女のように目を輝かして応援をさせていただいた皆様。こんなに暖かい村の人達の笑顔をおくさん見せていただいたのは、私の心の中に大きな財産として残っています。村民の皆様、本当にありがとうございます。

この幸せな気持ちを持ち続けて松本村長と共に元気な村づくりに励みたいと思う。

豊田 圭郎